



圧倒的な強さで明治大学が 3 年ぶり 5 回目の優勝！

明治大学が下馬評どおりの強さを見せつけて、3年ぶり5度目の優勝を決めた。前期リーグは、10勝1敗と筑波大学に黒星を喫した以外は勝ち続け、2位とは勝点9差を広げて首位ターンをした。後期も勝ち続け、第16節で駒澤大学に引き分けるまでは、11連勝で首位を快走した。誰もが、明大の優勝を疑わないほどの圧倒的な強さだった。

だが、自身のもつ史上最速優勝記録(2016年/第18節)を更新する最速優勝を期待されながらも、優勝が決定したのは第19節。「明大と対戦する時、相手は最大の力をぶつけてく」と主将のMF佐藤亮(4年)が言うように、どのチームも「王者・明大」の戦い方を研究して迎え撃った。結果、後期リーグでは思うような試合運びができないことも。第16節で引き分けた後の第17節の専修大学戦、第18節の法政大学戦は先制点を許す展開に。だがMF瀬古樹(4年/横浜FC内定)は「失点しても動じないのが今の自分たちの強み」ときっぱり。「取られても取り返すだけの力が身につけている」との言葉どおり、2試合連続の逆転勝利で優勝に王手をかけた。

第19節の順天堂大学戦でも、前半半ばからはほぼ順次にペースを作られながらも、40分に佐藤亮がゴールを流し込む。栗田大輔監督が「うれしかった」と笑顔を見せた主将のゴールで明大が先制する。

後半に入ると、すぐに順次に1点を返されるが、ここでも明大は焦らなかった。70分には、今季初出場のFW狩土名輝(3年)がゴール前の混戦からボールを拾い、ゴールネットに突き刺した。

すでに総理大臣杯、「アミノバイタル®」カップと2つのタイトルを得ている明大だが、栗田監督は「トーナメントとリーグ戦は違う。リーグ戦は1年の積み重ねの勝利」という。今季は3バックの起用などシステムの変更をはじめ「学生主体の変革もあった」。順次に苦しみ始めた第19節では、3バックと4バック、試合中にシステムを細かく変えて対応するシーンも見られた。「失敗と成功を繰り返しながら」(同監督)手にした優勝。しかし、選手にとってはすでにこの優勝は「通過点」(佐藤亮)。次なるタイトル、インカレ優勝に向けて残り3試合の充実を誓った。



~11/3 選手優勝コメント~

【佐藤亮(4年・MF・主将)】

優勝したことはうれしいけれど、ひとつのタイトルを獲得するという感覚。だから優勝が決まっても爆発的に喜ぶ、感じではなかった。通過点のような感じ。ゴールの瞬間も、点を取れたことには安心したけれど「このままじゃダメ」という気持ちのほうが強かった。1点を取っただけで喜んでいるようでは、今日優勝を決められないんじゃないか、と。それでゴール後も自然に喜びが出てこなかった。「次、次」という気持ちのほうが大きかったんでしょね。今年は「もしかしたら今年で自分のサッカーが終わるかもしれない」という気持ちでシーズンに臨みました。だから本当に悔いなくやりたいと思ったし、自分の姿を大学サッカーに刻みたいと思ってプレーしています。

【狩土名輝(3年・FW)】

優勝は、スタッフをはじめ、この1年間リーグ戦を戦って人のために、よかったと思いました。彼らが報われたことが本当によかった。優勝が決まる試合、自分の怪我からの復帰戦という特別な試合という感覚はなく、いつもと同じように試合には入りました。ボールがこぼれてきたときには、腕でスペースを確認して、すぐに打てば反応できないかなと思って、ターンしてシュートをしました。相手がどうというより、チャンスをつくるのが自分の役割。そういう意味では、いつもどおりのプレーができてよかったです。

【森下龍矢(4年・MF)】

今日の順大は旗手(恰史・4年)やほかのFWが中間をとってきて、明大のセンターバックが出られない状況を作ってきた。正直いうと順大がいちばんやりにくい相手で、いつもどおりの順大に僕たちがしっかり苦戦したというか(笑)。ここ最近では厳しい試合が続いているのですが、悪い内容の試合でも負けないという自信はあります。だから今日の試合展開は、自分たち的にはそう悪くはないと思っていました。優勝は、もちろんうれしいです。けれどインカ

レに向けて危機感も生まれました。もつとがんばらないといけないな、と思います。

【安部終斗(4年・MF)】

4月からリーグ戦をやってきた中では、怪我人などいろいろなチーム事情もありました。それを乗り越えて、最高の形で優勝できたのでめちゃめちゃうれしかったです。個人的にも栗田監督に迷惑をかけましたが、ピッチの内外でもう一度がんばることで、栗田監督の信頼を取り戻すことができた。最後は監督と抱き合うことができてよかったと思います。リーグ戦の最速優勝記録は更新できませんでしたが、まだ最多勝点優勝の可能性はあります。みんなで戦って、最多勝点を狙いたいと思います。

【瀬古樹(4年・MF)】

優勝した瞬間は、うれしい気持ちと「やっとなめた」というほっとした気持ちが同じくらいでした。ここまで勝ち続けて、まだ優勝が決まらないのか、という気持ちもあったので……。そして、あとは本当にインカレを獲りに行くだけだな、と思いました。前半は順大のペースでした。僕と(安部)終斗が出ていったところつかれて、順大がうちの嫌なことをやってきた、とは感じました。ただ、ワンチャンスを活かして(佐藤)亮が点をとってくれたし、後半の入りで失点はしましたが、自分たちの流れはきていると思っていました。取られても取り返すだけの力が、自分たちは身につけている。自信をもって、やることを変えずに攻め続けた結果が、今日の勝因でもあったのかな、と思います。

【小野寺健也(4年・DF)】

今年から出場機会を貰った中で優勝出来たのは嬉しい。何よりこうやって4年生が頑張っている中でピッチの中で勝利に関われたことが嬉しい。怪我人が多い中、怪我要員といううか、代役で終わらたくはないとずっと思っていてプレーしてきました。一試合一試合を大事にしつつ、個人的にも成長しながらアピールしたいと思っています。

2019年度 第68回全日本大学サッカー選手権大会

■日程■

【1回戦】

12月11日(水)①11:00②13:30
@浦安、AGF、川口、柏の葉

【2回戦】

12月14日(土)①11:00②13:30
@味フィ西、AGF、浦安、柏の葉

【準々決勝】

12月16日(月)13:00
@味フィ西、AGF、川口、柏の葉

【準決勝】

12月19日(木)13:00
@浦和駒場、NACK5

【決勝】

12月22日(日)13:00
@浦和駒場

■正式会場名 浦和駒場=浦和駒場スタジアム、味フィ西=味の素フィールド西が丘、AGF=AGF フィールド(味の素スタジアム西競技場)、柏の葉=柏の葉公園総合競技場、浦安=浦安市運動公園陸上競技場、NACK5=NACK5 スタジアム大宮、川口=川口市青木町公園総合運動場陸上競技場